

# 会津ファン

会津ファンクラブ公式会報誌

vol.11

AIZU FAN

2017.3



## 表紙の場所



場所:湯野上温泉駅付近

## 会津ファンの集い開催!! 報告



平成28年10/22・23に『会津ファンの集い』が開催されました

会津ファンクラブが発足して初めてとなる交流イベント「会津ファンの集い」を昨年10月に開催しました。遠くは青森県から兵庫県まで会津をこよなく愛する方々にご参加いただきました。



歴史散策

歴史のプロフェッショナルであるガイドさんの案内で、鶴ヶ城から会津藩主松平家墓所、御薬園の約6キロの道のりを歩き、会津を堪能してもらいました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました!!



懇親会

夜の懇親会では、会津の郷土料理や日本酒を味わっていただき、班対抗のクイズなどで交流を深めました。参加者の方の中には現在も交流を続けている方もいらっしゃいます。

### ◆オプションツアーも開催◆



①水を極めるコース

「大川ダム」と「宮泉銘醸橋」を見学し、会津の水の豊かさについて学びました。



②漆器を極めるコース

江戸時代から続く会津漆器の工房などを見学し、会津人から貴重な話をうかがいました。

## 皆様からのお便りをお待ちしています

会報誌に取り上げてほしい場所や物、人物などのご意見、ご要望をお待ちしております。事務局までお気軽にお寄せ下さい。



ご意見・ご要望  
お待ちしております

## イベント情報 Event Information

### 鶴ヶ城さくらまつり 期間:4月7日(金)~5月7日(日)



会津十楽春の陣



鶴ヶ城公園ライトアップ

桜の開花時期に合わせて、4月7日(金)から5月7日(日)の期間を「鶴ヶ城さくらまつり」と称し、様々なイベントを開催します。

- 鶴ヶ城公園ライトアップ(4月7日~5月7日)
- 鶴ヶ城さくらまつり大茶会(4月22日~23日)
- 鶴ヶ城おもてなし市(4月15日~5月7日)
- 会津十楽 春の陣(4月8日~5月7日までの土・日・祝)
- ごども神輿(4月16日)
- 会場:鶴ヶ城公園内 ■時間:イベントにより異なる
- お問い合わせ先:会津まつり協会 TEL.0242-23-4141

### あいづ食の陣 アスパラ:4月1日(土)~6月30日(金)



会津若松市内の飲食店・宿泊施設や直売所などで、旬の会津産食材を使ったメニューを味わうことができます。4月から6月は「会津アスパラガス」です。「あいづ食の陣」の赤い旗を目印にぜひお越し下さい。

■お問合せ先:あいづ食の陣実行委員会事務局(会津若松市農政課内)TEL.0242-39-1253

■時間、会場は各店舗により異なります。

■詳しくは、あいづ食の陣 <http://aizu-shokuno-jin.jp/>

7日(金)~5月7日(日) 茶室麟閣 月釜  
会場:鶴ヶ城公園内 茶室麟閣 時間:10:00~15:00  
料金:大人1,000円(入場料込み)小人800円  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0242-27-4005

24日(月) 白虎隊墓前祭  
会場:飯盛山 白虎隊墓前 時間:10:30~  
会津若松市観光課 TEL.0242-39-1251

15日(土)~5月7日(日) 観音寺川桜まつり ※ライトアップも開催予定  
会場:観音寺川周辺(猪苗代町大字川桁地内)  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0242-62-2048

29日(土)~5月5日(金) 桜峠さくらまつり  
会場:桜峠およびラビスタ裏警備施設内  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0241-32-2511

12日(金) 愛宕神社祭礼奉納歌舞伎  
会場:檜枝岐の舞台 時間:18:00開演 19:00開演  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0241-75-2432

14日(日) 第18回荒城の月市民音楽祭  
会場:會津風雅堂 時間:14:00~16:00(開場:13:30)  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0242-27-4005

28日(日) 炎の郷・向羽黒山城跡 ふれあい茶会  
会場:会津美里町本郷地域白鳳山公園内 時間:10:00~15:00  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0242-56-4882

10日(土)~11日(日) ふるさと会津工人まつり  
会場:三島町生活工芸館前(大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上)  
時間:10日9:00~16:00 11日9:00~15:00  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0241-48-5502

15日(木)~7月5日(水) あやめ祭り  
会場:伊佐須美神社あやめ苑  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0242-56-4882

24日(土)~25日(日) ホタル祭りinきたあいづ  
会場:会津若松市やすらぎ広場ホタルの森公園  
時間:12:00~21:00  
鶴ヶ城管理事務所 TEL.0242-58-2381

## 会員様プレゼント

応募方法

ハガキにて①住所②氏名③連絡先(電話またはメールアドレス)④会津ファンについての感想やご要望⑤会津や鶴ヶ城についての思い⑥会員番号をご記入の上、ご応募ください。※当選は発送をもって代させていただきます。※会員様のみの受付となりますので、この機会には是非、ご応募ください。



会津の民芸品(起き上がり小法師、赤べこ、会津本郷焼きマグカップ)を各1名ずつ3名様に抽選でプレゼントします。

宛て先

〒965-0873 会津若松市追手町5-10-2F  
一般財団法人会津若松観光ビューロー内「会津ファンクラブ事務局」宛(5/31消印有効)

## 巻頭特集

東武鉄道 新型特急「リバティ会津」

# 温泉を巡るサムライライン

戊辰150年 会津藩の歴史(序章)

会津原寸大図鑑[鐔]



# 戊辰一五〇年 会津藩の歴史(序章)

平成30(2018)年に戊辰150年を迎える会津若松市。戊辰戦争(会津戦争)の際には、新政府軍の猛攻を受けた会津藩。シリーズとして戊辰戦争前と後についてご紹介します。今回は序章として、会津松平家の祖である「保科正之」に焦点をあてます。

## 家訓

- 一 大君を慕ふ心天地を忠勤奉り列國を司り
- 一 忠孝を尊ぶ心則ち非我を誅す法を奉り使
- 一 武備を怠らざるを本とす
- 一 丁敵を愛す
- 一 婦人女子は一切不干渉
- 一 丁重正長法
- 一 丁中丁初風成
- 一 丁子行精末備
- 一 丁子依信忠義
- 一 選士丁子取使侍使侍者
- 一 藩判官も丁子奉和と若者出仕者
- 一 丁敵は
- 一 丁子使進侍者若人若者
- 一 政事不干利害社進侍者後私意無令
- 一 公蔵所忌干中事と雖も損重不干私意
- 一 犯法者不干宥
- 一 社会を以て是れ藩判官に依りて
- 一 不干他府
- 一 藩判官は忠義を以て其責を司り
- 一 何れも我利 印領土地或は心上表下懸属
- 一 若十五侍之旨世相守り 丁子丁子傳
- 一 同職者也
- 一 寛文六年戊申四月廿五日 會津中將 保科正之

会津藩 家訓15ヶ条

鶴ヶ城の最上階に登ると、天気の良い日には会津盆地をぐるりと取り囲む山並みが一望できる。この山々に囲まれた広大な会津盆地は、自然の豊かな恵みによって多くのものを生み出す。周囲の山岳地帯の険しさは、むかしは外部との交流の障害となり、「会津」という地域の独自性をつくり出した。その会津の精神面での特徴として現代では「頑固」という表現が用いられることも多いが、それは「伝統を守る」ということでもあり、それを生んだのはこうした環境によるところが大きいと感じられるのである。ただしこれは「変革を拒む」とも表裏一体となる。19世紀初頭に設立された藩校日新館は、もとは行き詰った会津藩を立て直すために田中玄宰が行なった藩政改革の一環で、実学主義を建前としていた。しかし玄宰と彼を支えた藩主松平容頌が相次いで死去すると、この精神は従来の朱子学を重視するものへいつの間にか転換し、幕末に向けて武士道を貫くことが加速されていくことになったのは皮肉なところである。

会津藩の歴史を書く前にあらかじめお断りしておくが、「藩」という概念は、江戸時代におけるそれぞれの地域を支配することであり、単に「会津藩」と言ってしまうと、徳川家康が江戸に幕府を開いた頃の領主である蒲生秀行にはじまり、以後加藤氏、保科・松平氏へと時代によって推移する。しかし一般的には保科正之が会津入りした1643年に始まる会津松平家によって支配されたところを指すことが多い。したがってここでは「会津藩Ⅱ(会津松平家が支配した時代)」として述べることにする。

会津松平家の祖である保科正之が山形から会津入りした時は23万石という石高であった。この数字が表わすところを解説してみよう。むかしは全国的に通用する価値の基準は「米」だった。金銭は藩ごとに使われる紙幣が異なっていたりした。税金も「年貢米」として米の量で定められていたのだ。ちなみに1石とおよそ180リットル。23万石というと、一升瓶で二千三百万本の年貢米を納める広さの土地ということになる。この数字の大小は支配する土地の広さを表わすとともに、藩としての経済力の大きさも示している。徳川家康が幕府を開くまでは、各地の戦国

大名たちがその力を競い合うなどしており、そのころ会津を支配していた上杉景勝は庄内地方(山形県)などまで含めた120万石という、全国第3位の石高を有していた。しかし家康が関ヶ原の戦いで勝利して幕府を開くと、以後は徐々に各地の大名たちの力が削がれていった。諸大名の力を弱めることは幕府の力が強まることでもあり、中央へ権力を集中させていったのである。こうした時代の中で保科正之が会津藩主となるのであるが、周囲の大名たちが減らされる一方の中で、彼は信州高遠3万石から山形20万石、そして会津23万石へと異例の出世であった。これは正之が3代将軍徳川家光の実弟であったためで、しかも血統だけでなく人材としてもすぐれた政治手腕を発揮したことによる信頼を得ての加増だった。以後、幕末に至るまで会津は保科・三代より改姓(松平氏の支配が続くことになる)。

保科正之は幕府の中枢において、会津へ帰ることはほとんどなかった。しかし将軍家へ絶対忠誠を第一に掲げる「会津藩家訓」に見られるように、正之の意向は藩の運営に直接反映され、幕末期まで会津藩の精神の支柱として脈々と受け継がれることとなる。ただし注意しなければならぬのは、十五ヶ条からなる家訓では第一條だけが取り上げられることが多いが、そのような精神論だけでなく、全国に先駆けての社会保障制度となる「社会制」を明記するなど多岐に及んでいる。

正之の没後、その子である正経を経て三代正容の代に松平姓と葵の家紋の使用が許されることとなった。葵紋は菊紋と並んで江戸時代は使用することが厳しく制限されていたため、格別なものとして会津藩は位置づけられることとなった。一方で松平姓を名乗ることは、当時としては徳川将軍家に関係する一員として、いわば「その他大勢」的な意味合いがあり、保科正之の存在の大きさから考えると保科姓を名乗っていたままの方が他藩と明らかな違いを認識させられていたに違いない。幕府側からすると、そうした存在をそのまましておくことが、推し進めようとする幕藩体制の権力の集中の弊害になると思っただけであらう。



会津藩校日新館



保科正之の公肖像画(土津神社蔵)

# 鐔つば

サムライの魂を最後まで持ち続けた会津藩では、その魂そのものであるといわれる刀づくりも盛んに行なわれていた。名刀・名刀匠も輩出され、全国的にも有名である。会津の刀匠を系統的に見ると、古川・下坂・三善・中条・鈴木の五鍛冶と、下坂別家・角・皆川・村田・若林・長尾の六家、その他に分けることが出来る。

これらの各系統に所属する刀工の総数は、明治初期に至るまで百三十余の多くを数えたが、特に有名な刀工といえば、古川兼定と三善長道だろうか。新選組副長の土方歳三が兼定など会津の刀を愛用していたのもまた、会津刀の人気を裏付けるものといえるだろう。

会津武士の公式の場での拵しごえというのは、その気風のように質実剛健を旨としたシックなものであったが、そんな彼らも、まったく洒落心を持っていなかったわけではない。なにしろ、会津には素晴らしい刀装具(刀剣の外装)を製作する金工師たち(総称して会津正阿弥あやみ)がいたのである。彼らは鐔つばだけではなく、目貫めく貫や笄はし、小柄こづか、縁頭ゆきかぶなどの金具を製作していた。そして、彼らがうみだした芸術品は会津武士達に愛され、また現在もその美しきで人々を魅了している。

※正阿弥、本阿弥など「阿弥」を名乗る人々は、室町時代に將軍に近侍した同朋衆から起こった名称で美術一般を取り扱った集団であり、一種の職能集団として全国に広がったが、会津正阿弥の始まりは、天正18年(1590)に蒲生氏郷の会津入りにしたがって京より移ってきた金工師達である。



伊勢物語図鐔

Full Scale Data 縦/約7.70cm 横/約7.10cm



百合図鐔

Full Scale Data 縦/約7.80cm 横/約7.25cm



稲穂群雀図鐔

Full Scale Data 縦/約7.09mm 横/約7.40mm



福寿録図鐔

Full Scale Data 縦/約8.60cm 横/約8.00cm



薄に狸図縁頭  
上/縁・下/頭

\*「会津原寸大図鑑」は会津に関係のあるものをより身近に感じていただけるように、実物大(原寸大)で掲載・紹介するコーナーです。

